

四谷の

千枚田だより



第 209 号

三密回避
手洗い励行

一昨年末から世界恐慌に陥れた
新型コロナウイルス感染症
(COVID-19) は今をもって終息の
兆しもなく、ますますの猛威を振る
っている。

《知っとく》「コロナ禍」の「禍」は「災
い」や「災難」「不幸なできごと」を
意味することばで、「新型コロナウイルス
イルスが招いた災難や危機的状況

愛知・岐阜 緊急事態宣言

7府県に再発令 「日中も外出自粛」

菅義首相は十三日、政府の新型コロナウイルス感染
対策本部を官邸で開き、新型コロナウイルス特別措置法に基づ
く緊急事態宣言を栃木、愛知、岐阜、京都、大阪、兵
庫、福岡の七府県に追加で再発令した。

宣言は今月七日に首都圏の一都三県に再発令したが
感染拡大に歯止めがかからず、対象地域は大都市部を
中心に十一都府県に拡大した。計十一都府県

ビジネス往来停止

救命要請に「無理」 崩壊実感

名市大病院

中日新聞 令和三年一月十四日 一面 抜粋

【解説】市民一人一人が危機感

…、「新型コロナウイルス感染拡大
の影響で……」というように書き出
しが長くなってしまふことを避け
ようと、昨年三月半ば頃から、新聞
を含めた活字メディアがこの合成
語を使い始めた。

十六日、中日新聞記事では国内で
初めて新型コロナウイルスの感染
症が確認されてから十五日で一年
を迎えた。累計の感染者数は三十万
人、死者は四千人を超え、終息が見
通せない状況が続く。と報じた。

寒さで水瓶が割れた

一月八日、九日の早朝の寒さ(零下



五℃)で仮設トイレの手洗い用に設
置した水瓶が割れてしまった。
仮設トイレの横で来訪者に穏や
かな原風景を提供、癒しを与え続け
てきた水瓶(手洗い)を新たに設置し
てみた。

稲作勉強会のお知らせ

中山間地帯等直接支払制度四谷
集落協定(代表村雲伸一)は二月十三
日(土曜日)、十九時より連谷公民館
に於いてJA愛知東営農部農業振興
対策室職員をお招きして中山間地
における稲作勉強会を開催する。



平成三年三月二十一日撮影

災害復旧

昨年、七月一日の豪雨(ステージ3)が起因した千枚田入り口付近の崩落個所の工事が始まった。

災害箇所現状を知る百姓は危険を察知、大廻りをするか、または刈り取った稲を軽トラで搬送するにも二〜三束と極力軽くして運んだり、用心していた。災害発生時は連日の雨で被害拡大を防止するための応急処置として翌朝にはブルーシートで覆った。知らない連中は、トラ策を設置して注意を促がし



たにも係わらず、さして気にもしないようでもあった。いずれにしても二次災害、事故がなかったことが幸いであった。

工期は三月二十六日であるが、作業道の全面を切り掘りして工事を進めているため、全面通行止めとなっている。

迂廻路は県道を約五十mほど上ると、真下に降りる道があるにはあるが、急傾斜で滑りやすく、尻餅を搦きやすいので、お勧めはできない。

けなげな斬

郷土の人物 松下家年代記

豊橋鉄道「四谷千枚田口」滝上バス停(県道388号)を降りると松下集落となる。その、新城市海老松下地区には、松下姓の一族が住む。

この一族の中に松下恒雄家の六代前と四代前の先祖に、徳川時代前期から大正時代にかけて百年間の大小の出来事を『松下家年代記』執筆者松下新八郎圓吉(文化四〜明治四)と孫の新八郎尊誠(弘化四〜大正四)が日記風に丹念に書き残し、この地方の郷土史研究に貴重な資料となっている。

注目すべきこの年代記を書き残した二人の人物とその家柄を紐解くと、そもそも海老松下の一族は、

今川、北条、武田、織田、豊臣、徳川という戦国時代の強い武将たちと深い関係を持った地方の小武将の家柄で、先祖は、遠く第五十九代宇多天皇(八八七〜八九七)につながる宇多源氏を祖として近江国を支配した近江源氏の棟梁として、更に土族となり、三河国碧海郡松下郷に移住、松下姓とした。時は流れ、戦国の時代になったころ、松下家は長則が当主となり、長則は当時、劍豪柳生石舟斎と肩を並べる長槍使いの劍豪で、兵法にも長じ、今川氏に請われて軍師を勤め、遠江国頭陀寺村に住んでいた。このころ、尾張國中村の生まれの日吉丸(秀吉)が仕官の主を求めて流浪の途中、長則に出会って、家来となり、武術や兵法を学び、のちの天下人となるきっかけとなったことは、大正九年発行の『尋常小学校修身書巻四』に「志を立てよ」と題して教科書に出され、広く知られているが、これは、日吉丸十六歳の時であった。

こうして、四年ほど松下家に仕えていた日吉丸は目的を胸に尾張へ帰り、織田氏に仕えたが松下家とは深い関係ができていた。そのころ、今川義元は上洛せんとして西へ軍を進めた時、松下長則は作戦参謀格

で従軍していたが、桶狭間の戦いで信長の奇襲に今川義元があえなく倒れ、長則は一族とともに鳳来寺へ隠遁したと云われる。この時、秀吉の同年齢であった長則の長男・之綱や、後に徳川四天王と呼ばれる名将井伊直政(虎松)などがおよそ十年ほど隠遁生活をしてきたが、やがて、秀吉や家康が強い勢力を持つにつれ、之綱は秀吉から家康へ、直政は家康に引き立てられ、それぞれが大名家となつていく。松下一族は、戦国時代の幾多の変遷を辿り、天正時代前後ごろに弟の池兵衛が現在の松下に居を構えたと云われる。

出典 広報ほうらい No.64 昭和六十一年十一月号 郷土の人物第5話 貴重な郷土資料『松下年代記』を書き残した松下圓吉と尊誠 文・鈴木隆一より抜粋・編集

お知らせ

例年、四月に実施されていた「横浜ゴム新城工場新入、幹部研修。茶臼山を起点に湯谷温泉をゴールの高山マラソン「パワートレイル」はコロナ禍のため、中止に決定。

行 令和三年二月一日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二